

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第5号

令和3年 1月 12日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 引田 雄士

【提案日時】

12月1日(水)

提案 山口 曉風 先生(小田小)

【会場】

横浜市立 小田小学校

司会 八木 浩司 先生(南吉田小)

記録 横尾 愛花 先生(矢向小)

○单元名：「地いきの安全を守る～火事からまちを守るために～」

○提案者より

<視点①>

- ・事故・事件の単元を先に行い、警察の学習で学んだことを生かし、同じような流れで子どもの予想から単元を見通す学習問題を立てられるようにした。

<視点②>

- ・消防団のSさんとの関わりから、周りの人から守られていることを捉え本気の学習問題を追究。自分たちも自分自身で守っているのではないかという気付きから、「本当に守っているのだろうか」という問いが生まれ、本時の選択・判断につながった。

(Sさんの資料から、地域に目を向けさせ、自分たちが「地域のために」できることの視野を広げたかった。)

(板書で自分や家族のためにできることと地域のためにできることの考えの数の差を視覚的にとらえさせたかったが、予想に反して差が出なかった。)

○協議内容

<資料について>

◎本時目標へつながる資料の価値

→地域に目を向けるための手立てになっていた。前半で提示することによって、後半で自分たちができることについて考えを深められる。また、自分の考えが一時間の授業でどう変わったのか選択・判断の場面の授業になる。

→一つの選択としてSさんが出してくれた挨拶について、子どもたちが考えてきたこととつながるかを問い返すと本時目標につながる。

<板書について>

◎整理・分類された板書

→「自分のため」と「地域のため」分けるのは難しい。

→前時の警察の単元での学習を生かすことで、子どもたちはどのように分類されているのか考

えることができていた。

<発言について>

◎根拠をもった発言

→既習事項をもとに根拠をもって自分の考えを話すことが大切。

<講師の先生より>

□教育政策推進課 主任指導主事 川上公美子先生

◎授業最後のゴールのイメージが大切

- ・地域に目を向けさせたいという思いは大切。
→地域に対してもっと焦点を絞っていったほうがよい。
→3年生は自分事から地域へ。

◎資料をじっくり見る時間を取る。

- 防災フェスタの資料について、「行く?」「行かない?」と聞くことで地域に目を向けさせられる。
→社会科はじっくり資料を見たり、話し合ったりすることが大切。

◎子どもの考えを把握する。

- ノートで先生は子どもと対話する。

◎資料を提示するタイミング

- ペアで十分に話し合いをしていたため、「地域の人に消火器や消火設備の場所を教えていく。」の発言のところで出してもよかった。

「資質・能力をベースに自分の学級ではどうなのか考えていく。」

□南部学校教育事務所 主任指導主事 赤羽博明先生

◎多様な反応。

→反応が同じではなく多様な反応がよい。非認知能力は3つの柱と相関関係がある。

◎根拠をもとに自分の考えを言えるようにする。

→これまでの学習が根拠となる。根拠があると納得するが、根拠がないと「なんで?」となる。

◎子どもの考えを生かす様々な手立て

→声掛け、子どもの考えをつなぐ、整理された板書（「地域のため」を子どもは理解できていない）

◎視野を広げる資料

- これまでに考えてきたことも大切であり、プラスαも大切。
→子どもの考えを生かし、もっと価値づける。

◎社会の仕組みや制度において視野を広げる。

- どこに焦点化させるのかが大切。
なぜ、この地域で挨拶が大切なのかを考えさせたり、放火の数の地域の実態を探ったりしてもよい。

◎選択・判断の評価は、思考・判断・表現力と主体的に学習に取り組む態度のどちらかでとるかは学校判断で決めてよい。

文責 八木 浩司 (南吉田小学校)